

考えておくよ

嶋 きらら

広島県・36歳・高校講師

私、一度でいいからあなたに愛されたかった。4月から突然燃え上がった恋の炎を制御できずに、たった2か月で終わってしまったから、同じ職場にいるあなたと会わない訳にはいなくて、ずっと苦しい思いでいました。当初、愛し愛されていると思っていたのに、あなたは会う度に17年前に別れた恋人の話をしましたね。ただの繰り言と思っていたのに、あなたの心の中にはまだ昔の人が住んでいることがわかりました。なぜ、私に昔のことを聞かせるのだろう……。その度、随分悩みました。

思い余って、「あなたは誰も愛していない。あなたの愛しているのは、自分自身だけ」と、ぶつけてしまいました。そして、それっきりでした。言ってはいけないことを言ってしまったようでした。6月以降、どうやって平静なふりをしようかと悩みました。「目の前にいる人は別の人。私の愛した人はこの人じゃない」と自分に言い聞かせ、あなたを通り越してむしろ側のあなたを見る癖ができました。「私の愛した人には、夢で会おう」。そう思いながらそれでもあきらめきれずに、この3か月を過ご

しました。

8月の終わりに、もう黙っていられなくなって携帯にすがりついて、「私を抱くのか、それとも刺されるのがいいか、どちらかにして」と迫りました。プライドも何もかもかなぐり捨てて愛を乞うた私に、「考えておくよ」でした。女が命をかけて恋する想いを伝えたことを、あなたは何だと思っているのでしょうか。あなたは、女には心がないと思っているのね。

その時、私の中で何かが崩れてゆきました。愛されず、かといって刺すこともできず、鬼にも蛇にもなれない私は、ただの女です。

私は、ただ愛されたかったのです。「刺す」は、「愛されたい」だったのです。17年前の女でなく、今現在の私を見て欲しかったのです。

※彼は以前勤めていた学校の同僚でした。彼にも私にも家庭があります。